

2025 年 11 月
No.485 号



333名にご来場いただきました！ ありがとうございました！！



来場者数：

10/16 [THU] 212名

10/17 [FRI] 121名



来場者数は333名とコロナ以降最多のお客様にご来場いただくことができました。

今回は『NEO プラスチック』のテーマを掲げ、過去と現在を融合し、未来を創造する展示会になるよう計画いたしました。

世の中へ投じていく新しいものづくりは難しいことではありますが、

森松展や日々の業務を通じて、皆様のお力になれるようわたしたち弊社社員は日々精進して参ります。

これからも変わらぬご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

実行委員長：企画営業部 清水亮太

第33回森松展を終えて

森 直樹（社長）



第33回元気になる森松展、盛会のうちに終了しました。2日間で333名の来場者を迎え、300名を割った前回以上に活気に溢れる会場の雰囲気でした。今後ともより多くの皆様より支持を頂けるような展示会へと発展させていただきます。展示会について考えますと、事前に出展企業の情報や出展内容は公開されており、事前の調査に従い見学当日はその興味のある企業へ向かっていくことと、その見学の途中でチェックしていなかった、だが興味を引く企業に巡り合うことがあります。例えて言うと、欲しい本を買うために書店に行ったら思いがけず良い本と出会った、ということに近いかと思います。書店の数は減少しておりますが、ネット上の空間ではなくやはりあのような実物が並んでいるのを眺めていくのは何物にも替えがたい空間ではないでしょうか。森松展は業界が自社の取引がある、今後取引が見込めるといった範囲に限定されますが、その中で同様に来場者の方が当日興味が湧くような出展内容に当たることもあるでしょう。展示会まで足を運んでいただいた結果、なんらかの成果を持って帰ってもらえるような展示会であることが今後も森松展を継続していくことの意義であり、我々の事業に直結するものになります。今回も長期に渡る準備から当日まで実行委員長をはじめ、皆さんお疲れ様です！



2025年9月13日から34年振りに東京で開催された「世界陸上2025」が9月21日に閉幕した。今年は、男子200mで4連覇を達成したノア・ライルズ選手をはじめ、アルマンド・デュプランティス選手が棒高跳びで世界新記録を樹立する等、大いに盛り上がったと思います。また、順位の優劣が出る一方で、レース終了後は各選手が握手やハグをして労っていたのが凄く印象的でした。日本のメダルは「競歩」だけという結果でしたが、それでも、十分に楽しませてもらいました。一方で、世界陸上を長きに亘って盛り上げてくれた俳優の織田裕二さんが今回の大会を最後にすると宣言された。主役は、もちろん選手である事は言うまでもありませんが、世界陸上と言うと織田さんのあの熱量と歌が欠かせないのではないかと思います。次回、2027年は中国・北京での開催となります。多くの日本選手が活躍してくれると共に、どんな記録が出るのか、新しいスターが誕生するのか、織田さんは本当に最後なのか、楽しみです。さて、来年、2026年は4年に一度のサッカーの祭典「FIFA World Cup 26™」が6月からカナダ・メキシコ・アメリカの3ヶ国共同開催にて行われ、日本は前回の優勝経験国・ドイツを破る様な戦いを見せ、過去最高成績ベスト16の壁を越える事が出来るのか楽しみです。また、忘れてはいけないのが、「FIFA World Cup 26™」の熱狂そのままに、9月からは愛知県・名古屋市を中心にアジア大会が行われ、名古屋でも多くの競技が行われる予定となっています。一流の選手たちの活躍を近くで見られるチャンスなので、何かしらの競技を観戦して、多くの刺激を受けたいと思っています。



人形供養

小坂 美香（企画営業部）



先日、葬儀社で人形供養祭がある事を知り行って来ました。以前から処分したいと思っていた人形がいましたが、処分方法に困っていました。その葬儀社では、会員は供養料が無料との事で、会員だった事もあり、タイミング良く行く事が出来ました。人形供養について調べてみると、大事にしていた人形やぬいぐるみなどを使わなくなったり、いらなくなったとき、供養して廃棄することを言い、一般的には、祈祷や読経のあと炊き上げを行います。これまでずっと大切にしてきた人形に対して感謝を込めるための儀式だと言え、処分という後ろめたさを解消してくれる効果があります。モノである人形を供養するのは、外国



ではほとんど例を見ない日本独自の文化との事です。葬儀社以外にも、神社やお寺、人形供養を専門に行う業者もあるそうです。また、供養にも人形供養以外にも「針供養」、「眼鏡供養」、「写真供養」、「印章供養」など、モノに対する供養もさまざまだという事も知りました。私は、雛人形とぬいぐるみを持って行きましたが、ガラスケースなど割れる恐れのある物は受け付けてもらえないと事前に知っていたので、ケースから出して持って行きました。葬儀場に着くと受付をして法要の会場へ行くと、祭壇があり、その周りには既に持ち込まれた人形が一体一体並べられていました。すごい数の人形に圧倒されました。供養法要までには時間がまだ先だったので参加せず、ご焼香だけをして帰りました。長い間一緒にいた人形をきちんと供養する事が出来て良かったです。

ピザ作り

木村 天（東京オフィス）



皆さん朝食はご飯派ですか？パン派ですか？我が家では朝食にパンを食べることが多く、今までは食パンやコンビニの菓子パン等をよく食べていました。パンを食べるなら自分で作った方が経済的だなと思い、最近ホームベーカリーを購入しました。寝る前に材料をホームベーカリーに入れてタイマーをセットしておけば朝起きたら出来立てのパンができていう手軽さとおいしさに感動してよくパンを作っています。出来立てはふわふわでとてもおいしいです。おかげで朝食で過ぎてしまうことも増えました…。パン以外にもうどんや餅なども作れるのですが、なかでも週末のお昼ご飯や夜ご飯にピザを焼くのにハマっています。宅配のピザも美味しいですが、結構お値段しますし脂っこかったりして意外と食べる機会ってそんなに多くない気がします。ホームベーカリーで作るピザなら材料を入れておくだけで簡単に生地が作れますし、あとは伸ばして具材を乗せて焼くだけで美味しいピザが家庭で食べられます。5歳になる息子もピザが大好きで生地を伸ばすのを手伝ってくれたり、一緒に具材を乗せたりと子どもと一緒に料理ができるのも結構楽しいポイントです。コンロも使わないですし材料も事前に切っておけば乗せるだけなので子どもと一緒に料理がしやすいのでピザ作りとてもおすすめです。今度の正月はホームベーカリーで餅作りをしてみようかなと密かに思っています。いろいろ作れて便利なので皆さんもホームベーカリー是非検討してみてください。



兵庫県へ旅行に

加藤 啄馬（製造部）



僕はお酒を飲むのが好きです。なぜなら、飲めば気分が良くなり、食べる物も普段よりおいしく感じるからです。7月が僕の誕生日なのですが、その月は毎年おいしい物食べたいなと思い旅行へ行ったり、普段行かない値段のお高い店に行くことが多いです。今年は誕生日が同じ月の知人と兵庫県へお酒と肉を食べに行くことにしました。土曜日の朝に名古屋駅から新幹線に乗り新大阪へ。そしてJRで神戸駅まで向かいました。お昼過ぎに目的地に着いて神戸の街を観光しました。夕方から居酒屋に入り、目的のお店が開くまでおでんやお酒を飲んでいました。ふらりと入ったお店ですが、県が違えば同じ食べ物でも出汁や提供の違いを感じれるのは旅行の醍醐味ですね。2時間ほど飲んでから目的の『ステーキランド』というお店に向かいコース料理を注文。ごはん・サラダ・スープ・漬物・神戸牛のステーキが出されます。楽しみにしていたのが、このお店は目の前でお肉を焼いてくれるのです。今までステーキ屋さんでそういった提供の仕方をしてくれるお店には行ったことがなかったので、目の前で調理をしてもらい目でも料理を楽しませてもらいました。料理が全部出そろって食べ始めました。とてもおいしかったです。お肉はあまり噛まずともすぐほぐれ、お肉につけるソースは2種類あり、ステーキソースと和風ポン酢の2種類。どちらにつけてもとても美味しかったです。ポン酢でさっぱり食べるのが個人的にはとても美味しかったです。食べ終わった後はホテルに行きホテル内にある浴場を満喫し、1日を終えました。兵庫には有馬温泉もあるので、今度兵庫に訪れた際には行ってみたいと思います。



第77回 名古屋まつり 甲冑試着体験

令和7年10月18日(土)～19日(日)



今年も名古屋まつりに参加させていただきました。
お越しいただいた皆様、誠にありがとうございました！

木下大サーカス

大脇 勝治（製造部）



先日、木下大サーカス名古屋公演を観に行ってきました。小学生の時に見に行った以来なので、約30年振りになります。今でもドキドキしながら見ていたのを覚えています。会場に近づくと聞こえてくる人の声と長蛇の列。昔もこんな感じだったのかな？と思いつつ、赤と白の大きなテントの中へ。最初のピエロの登場で場が和み、子どもたちの笑い声が響くと、時間が巻き戻ったような不思議な感覚になりました。空中アクロバットショー・空中大車輪・ダブル空中ブランコショーなどスリル満点の演目が次々と披露されました。宙を舞う演者たちの勇気と信頼、そして一瞬の静寂の後に起こる大きな拍手。どの場面も目が離せませんでした。椅子のバランス芸やスーパーイリュージョンも圧巻で、人間の身体能力と想像力の限界を感じさせてくれました。ポニーと象のショーでは、長年ともに過ごしてきた動物たちとの信頼関係が伝わり、ただの見世物ではない「生きた芸術」を感じました。観客席の子ども達の笑顔を見ながら、あのときの自分もこうやって見ていたんだろうな…と思えるそんな温かく不思議な時間でした。約30年の時を経て、再び訪れたサーカスは子どもの頃とは違う感動を与えてくれました。サーカスは世代を超えて感動を届ける「生きた夢の舞台」だと、改めて実感しました。

